

柚子水を使用した口腔ケア

—刺激療法としての取り組み—

3階東病棟

○ 森田 博絵 野瀬 教剛 伊藤 希 谷相 友梨
小野 あゆみ 西村 八栄 小松 誓子

要旨

意識障害患者の口腔ケアは、口内の清潔を保ち感染予防に努めると共に、口内の刺激が脳の活性化につながり意識回復への働きかけとなる。日常生活援助のひとつとして行う口腔ケアを通して、患者の覚醒を促し生活リズムの確立や意識の改善を図るため、今回嗅覚、味覚を刺激する柚子水を使用した口腔ケアを行った。柚子は高知県の特産で日常慣れ親しんだ味と香りであり、容易に入手可能な事から選択した。1日2回柚子水をつけたガーゼによる口腔ケアを実施。1週間毎に状態・反応スケール（意識障害の治療研究会、スコアリング小委員会）を用いて測定を行った。その結果状態スケールは全症例得点の増加がみられた。反応スケールにおいては6症例中4例が点数増加を認めた。反応スケールの内容を見ると開眼反応・視覚反応・運動反応において反応が改善していた。発語反応・情緒反応では変化がはっきりしなかった。

意識障害患者の看護において、様々な外的刺激を与える事が意識の回復に有効と言われている。しかし急性期病院においては、生命の危機状態を過ぎた時点で回復期病院への転院の時期となり、外的刺激は主にPT・OT・STによるところが多く看護師が関わる事が少ない状況である。今回、日常の看護ケアである口腔ケアに柚子水を使用する事で、口内マッサージによる刺激に加え嗅覚・味覚への刺激を継続的に与えることができた。そして柚子水を使用した口腔ケアは意識障害患者の回復への働きかけになったと考える。

〔平成19年7月7日 第16回日本脳神経看護研究学会四国部会（徳島）にて発表〕